

病気を知るミニブック

mitsuba

みつば



子どもの感染症
を知ろう。【後編】

MINI BOOK
SERIES

12

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター

子どもの感染症を知ろう。【後編】

知ることが、家族を守る第一歩

「子どもの感染症」って、どんな病気？

赤ちゃんは母体から免疫を授かって生まれますが、その免疫は成長とともに弱まり、感染症にかかりやすくなります。

感染症とは、ウイルスや細菌などが体内に侵入・増殖し、さまざまな症状を引き起こす病気です。

子どもの感染症は、普通感冒（いわゆる風邪、のどの痛みや鼻水、咳、発熱を起こすウイルス性の上気道炎）が多いですが、それ以外の特徴のある感染症について取り上げます。

■ 突発性発疹

流行しやすい季節は特になく、生後6か月から2歳くらいまでで、ほぼ全ての子どもが感染します。突然高熱が出現して3～4日続きます。咳や鼻水はほとんど出ませんが、下痢になることがあります。熱が高いわりに比較的元気で、機嫌も良いことが多いです。解熱とともに、身体全体に発疹が広がり、数日で消えます。発疹が出た時に初めて診断できます。基本的に無治療で自然に治る病気です。予防法は特にありません。



■ はしか（麻疹）

ワクチンの普及のおかげで海外から持ち込まれた時のみ問題になります。非常に感染力が強い病気です。潜伏期間は10～12日で、最初の2～4日は発熱、咳、鼻汁、目やにが出現します。いったん熱が下がり、再び高熱が出て全身に発疹が出現し、熱は3～4日続きます。肺炎や脳炎を合併することがあり、重症例では入院が必要です。有効な薬はなく、予防にはワクチンが有効です。解熱後3日までは出席停止です。



■ 風疹

潜伏期間は2～3週間で、発熱とリンパ節腫脹、全身の細かな赤い発疹が出現し、熱は3日ほどで解熱します。症状の出ない人もいます。解熱して発疹が消えるまでは出席停止です。有効な薬はなく、予防にはワクチンが有効です。妊娠初期に風疹にかかると、生まれてくる赤ちゃんの目や耳、心臓に障害をきたすことがあります。妊娠する可能性のある女性には感染した人を近づかせないようにしましょう。



■ 水ぼうそう（水痘）

冬～春に流行。約2週間の潜伏期間後、発熱やかゆみを伴う発疹があらわれ、水疱からかさぶたへ変化しながら全身に広がります。治療は外用薬などの対症療法が基本で、重症時は抗ウイルス薬を使用します。発疹がすべてかさぶたになるまでは出席停止です。



❑ おたふくかぜ（流行性耳下腺炎・ムンプス）

2～3週間の潜伏期間後、発熱と耳下腺（あごの付け根付近）の腫れ・痛みが生じます。解熱鎮痛薬などによる対症療法で、多くは1～2週間で回復しますが、まれに髄膜炎や難聴などの合併症を起こすことがあります。腫れが出現して5日が経つまでは出席停止です。



❑ 手足口病・ヘルパンギーナ

両方ともエンテロウイルスによる感染症で、夏に流行し、乳幼児に多い感染症です。手足口病は、発熱と食欲不振、のどの痛みなどで始まり、手のひらや足の裏、口の中に水疱が現れます。ヘルパンギーナは、突然の高熱と喉の痛みで始まり、口の中に水疱ができます。飲み込むときの痛みも強くよだれが出ます。両方とも無治療で自然に治る病気です。



❑ アデノウイルス感染症：扁桃炎、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱

アデノウイルスには多くの型があり、様々な部位の感染を起こします。扁桃炎では、39度以上の高熱が4～5日続き、扁桃に白い渗出物が付き、のどが痛くなります。目に感染すると白目が充血して目やにが出る流行性角結膜炎になります。結膜炎に加えて咽頭発赤や発熱を認めると咽頭結膜熱と呼びます。血液検査で炎症反応が高くなることがありますが、抗生剤は無効です。自然に治るのを待ちます。



❑ 溶連菌性咽頭炎・扁桃炎

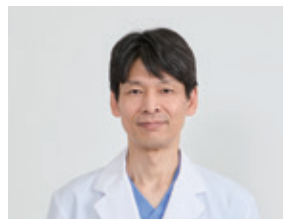
溶連菌（正確にはA型溶血性連鎖球菌）という細菌がのどに感染します。急激な喉の痛みと全身のだるさ、発熱、頭痛で発症し、のどは赤く腫れ、扁桃に白い分泌物が付きまします。診断は、咽頭の検査を行います。後に、リウマチ熱や糸球体腎炎などを発症することがあり、予防のために抗生剤を10日程度内服します。医師の指示に従って、最後まで飲むようにしてください。



Doctor's Voice

なばため
小児科 科長 青目 信

今回はウイルス性発疹症と顔からのどにかけての感染症を紹介しました。今回紹介した以外にも、感染症はたくさんあるので、きちんと医師の診察を受けましょう。感染症を防ぐためには、帰宅後・食事前の手洗いを習慣づけましょう。ワクチンで予防できる病気は、ワクチンをスケジュールに沿って打つことがとても大事です。正しく知って感染予防を心がけましょう。



—— 地域のみなさまへ「おおさか健康セミナー」のご案内 ——

当院では、地域のみなさまを対象とした医療講座「おおさか健康セミナー」を開催しています。各診療科の医師や医療スタッフが、病気の正しい知識や治療・予防の考え方について丁寧に解説します。専門的なテーマを扱いながらも、日々の生活のなかで役立つ視点を大切にお伝えしているのが特長です。

- 参加無料・予約不要で、どなたでもご参加いただけます！
 - 医療をより身近に感じていただける機会です。
- ぜひお気軽にご参加ください。

開催日程やテーマの詳細は、当院ホームページ
「お知らせ」講演・行事のご案内をご覧ください。
お問い合わせ：地域医療連携室 TEL：06-6942-1331(代)

今回の開催は
令和8年10月31日(土)整形外科です！



大阪医療センターへのアクセス

▶ 公共交通機関をご利用の場合

- Osaka Metro(大阪メトロ)
中央線・谷町線「谷町四丁目」駅11号出口すぐ
- 大阪シティバス 62系統
大阪駅 ⇄ 住吉車庫前「国立病院大阪医療センター」下車

▶ お車でのお越しの場合

- 阪神高速(東大阪線・東行き)：「法円坂ランプ」出口すぐ 上町筋を右折
- 一般道：上町筋と中央大通りとの交差点南西角



独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION OSAKA NATIONAL HOSPITAL

住 所 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

休診日 土曜日・日曜日・祝祭日 年末年始(12月29日～1月3日)

代表電話番号 **06-6942-1331**

再診予約番号 **06-6946-3519** (受付：平日午後1時～4時)

